

第348回山口西田読書会（2024年4月6日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「場所」「五」の第4段落 288頁7行目から 289頁の最後まで

2. キーワードないしキーセンテンス

「一般的述語がその極限に達することは特殊的主語がその極限に達することであり、主語が主語自身となることである。」(288, 15-289, 2)

3. 考察及び問い

「一般的述語がその極限に達すること」は、限定せられた場所の外に出続け、場所そのものが真の無となることであろう。西田によれば、これは同時に「特殊的主語がその極限に達すること」であり、「主語が主語自身となること」である。一見するとこれら三つのことは同時に成立しないように思える。これら三つのことはいかにして同時に成立するのだろうか。また、「主語が主語自身となること」は「単に自己自身を直観するものとなる」ことなのか。